allcinema

幕末太陽傳(1957)

メディア 映画

ジャンル コメディ ドラマ 時代劇

製作国 日本 色彩 B&W 時間 110分

初公開日 1957/07/14

公開情報 日活 映倫

リバイバル 2011/12/23 「日活」 (デジタル修復版)

【解説】

古典落語の"居残り佐平次"を下敷きに、幕末の品川の遊郭に居座り続ける、お調子者で狡猾なひと りの男を描いたコメディの傑作。「雁の寺」「洲崎パラダイス・赤信号」の川島雄三監督、フランキー 堺主演。

明治維新を目前にした江戸の品川。ここに北の吉原と並び称される遊郭があった。その遊郭の一室で、 勘定を気にする仲間3人を尻目に呑めや歌えの大騒ぎをしている男こそ、主人公佐平次。この男、実は 懐には一文の銭も持ち合わせていないのだが……。

「居残り佐平次」以外にも「品川心中」「三枚起請」「お見立て」「明烏」といった落語ファンには お馴染みの廓噺を随所にちりばめ、リズミカルにして畳み掛けるようなスピーディな展開、それでいて メリハリの利いた演出と、観る者を一瞬たりとも飽きさせない川島雄三監督の代表作にして日本映画を 代表する傑作の1本。特筆すべきは主役の佐平次を演じたフランキー堺の演技で、その流れるようなム ダのない動きは、それ自体ある種の"芸術"の域にまで達しているといっても過言でない美しさを有し ていた。また、映画が進むにつれて悪化していく佐平次の咳が、明るくコミカルな作品のトーンにあっ て唯一静かな影を落としているが、常に死と隣り合わせで生きていた川島監督の死生観が垣間見えて印 象深い。エピローグ、それまで全編を通してひたすらアクティブだったスクリーンが、明け方近くなり 皆が寝静まり、佐平次がこっそり遊郭から抜け出そうとするシーンになって一転、強烈な静けさに包み 込まれる。この動から静へのあまりにも見事な転換は映画史上屈指のエピローグではないだろうか。と にかく日本が誇る二人の類い希な天才が高次元で融合して産み落とした奇跡の映画である。

【クレジット】

監督 川島雄三

製作 山本武

脚本 田中啓一

川島雄三

今村昌平

撮影 高村倉太郎

美術 中村公彦 [美術]

千葉一彦

編集 中村正

Toshiro Mayuzumi 音楽 黛敏郎

監督助手 浦山桐郎

遠藤三郎

磯見忠彦

allcinema

照明 大西美津男

特殊撮影 日活特殊技術部

資料提供 宮尾しげを

安藤鶴夫

殿山泰司

加藤博司

助監督 今村昌平

出演 フランキー堺 Frankie Sakai 居残り佐平次

左幸子女郎おそめ南田洋子女郎こはる石原裕次郎高杉晋作芦川いづみ女中おひさ市村俊幸杢兵衛大盡

金子信雄 相模屋楼主伝兵衛

山岡久乃 女房お辰 梅野泰靖 息子徳三郎 織田政雄 番頭善八 岡田真澄 若衆喜助 高原駿雄 若衆かね次 青木富夫 若衆忠助 峰三平 若衆三平 やり手おくま 菅井きん 小沢昭一 貸本屋金造 植村謙二郎 大工長兵衛 河野秋武 鬼島又兵衛 西村晃 気病みの新公 熊倉一雄 のみこみの金坊 三島謙 粋がりの長ンま

二谷英明長州藩士志道聞多

仏壇屋倉造

息子清七

小林旭 久坂玄瑞 関弘美 伊藤春輔 武藤章生 大和弥八郎 徳高渓介 白井小助 秋津礼二 有吉熊次郎 宮部昭夫 長嶺内藤太 河上信夫 岡っ引平六 山田禅二 坊主悠念 井上昭文 ガエン者権太

井上昭文カエツ者権太榎木兵衛ガエン者玄平井東柳晴吉原の附馬小泉郁之助呉服屋

小泉郁之助宍脈産福田トヨ新造おとら新井麗子女郎おもよ竹内洋子女郎およし芝あをみ女郎おてつ

allcinema

清水千代子 高山千草 女郎おうの 女郎おさだ